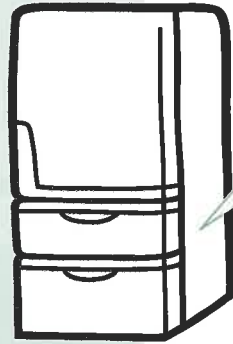


万が一の時は『命のボタン』で!!

町では、これまで、おおむね65歳以上のひとり暮らしの高齢者やひとり暮らしで身体に重度の障害を持たれている方に対し、急病や災害等の緊急時に緊急通報ボタンを押すだけで、救急車を要請できる緊急通報装置を貸与してきました。(189戸設置 H25.5末現在)

救急医療の現場では、患者さんの正確な医療情報が救命の重要なポイントとなります。

そこで今年度、多可町ではかかりつけ医や服薬内容などの医療情報を入れた容器「救急医療情報キット(命のボタン)」を1人暮らしの高齢者で、希望者を中心に無料配布する事業を開始します。「救急医療情報キット(命のボタン)」を冷蔵庫等に保管頂くことで、万が一の救急時に備えます。



- 緊急医療情報キット
- ・氏名
 - ・生年月日
 - ・血液型
 - ・かかりつけ医療機関
 - ・服薬
 - ・持病
 - ・緊急連絡先
 - ・情報など

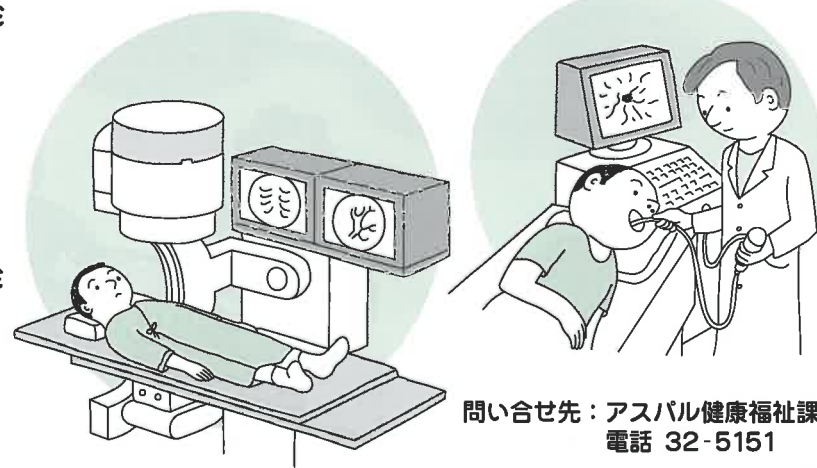


個別ガン検診を受診しましょう

ガン検診はこれまで、町ぐるみ健診期間(年間14日間)に受診しなければなりませんでした。今年度から、多可赤十字病院等と連携し、年間通して個々人の都合の良い日に受診できるような環境を整えました。

ガンは、早期発見・早期治療で完治するものです。自分の健康のため、大切な家族のために健康管理に努めてください。

- ◎肺がん検診
胸部X線検査 喀痰細胞診
- ◎胃がん検診
胃透視、胃カメラ
- ◎大腸がん検診
便潜血反応検査
- ◎乳がん検診
マンモグラフィー、視触診
- ◎子宮頸がん検診
子宮頸がん細胞診
- ◎前立腺がん検診
PSA検査



住民の皆さんとともに誰もが健康で安心して暮らせるまちを目指します

政策リーダー

No.37

2013年8月号(隔月発行)
発行元
多可町役場(経営企画課)
電話：0795-32-2381
Fax：0795-32-2349
http://www.town.taka.lg.jp

誰もが安心して暮らせるために

誰もが住み慣れた地域で心身ともに元気で安心して暮らし続けることができる社会をつくるためには、医療と地域福祉を連携させた取組を進める必要があります。

多可町では、住民の皆さん・医療機関・福祉機関・関係団体・役場が相互に連携することで、地域の皆さんの幸せと安全が保障される社会の実現に取り組みます。



幸福度調査にみる地域医療

町がH23年度、H24年度にわたって行った『幸福度調査』では、回答者の約92%が、幸福な生活のために重要だと思うこととして『健康であること』を第1位に選んでいます。

また、町が行っている施策のうち、幸福な生活のために重要と思う施策の上位5つは、下記のとおりとなっています。

平成23年度 住民満足度(幸福度)調査結果

回答者数：645人	0.0%	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%	100.0%
第1位：生きがいをもって安心して働ける場の創出	41.9%					
第2位：安心できる地域医療体制	39.5%					
第3位：災害に強いまちづくり	37.5%					
第4位：安心して住み続けるための住環境の整備	35.8%					
第5位：高齢者福祉の推進	32.2%					

平成24年度 住民満足度(幸福度)調査結果

回答者数：626人	0.0%	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%	100.0%
第1位：生きがいをもって安心して働ける場の創出	46.2%					
第2位：安心できる地域医療体制	40.6%					
第3位：災害に強いまちづくり	38.0%					
第4位：おいしい水を安定して飲める環境整備	36.6%					
第5位：安心して住み続けるための住環境の整備	31.2%					

安心できる地域医療体制を確保することで、切れ目のない良質なケアを目指していきます

『北はりま絆ネット』のしくみ

情報公開病院

電子カルテ導入病院



- ・西脇病院 ・加東市民病院
- ・加西市民病院 ・大山病院
- ・多可赤十字病院 (H25年度中導入予定)
- ・北播磨総合医療センター (H25.10 開設予定)

次の診療所に、今の病状をうまく伝えられるかなあ？



照会・回答

【共有する診療情報】

- ① 服薬
- ② 注射
- ③ 臨床検査
- ④ 放射線画像

個人情報が保護されたインターネット回線使用

- ・患者さんの同意が前提
- ・診療情報は暗号化

照会・回答

情報活用施設

病院・診療所

参画診療所等の状況は？



よかった!!
安心して
診療を続けられる

ふむふむ
今の診療状況は
分かりました

補完情報照会回答



介護・福祉施設



『北はりま絆ネット』の利点

患者さん

- ・検査、処置の重複を避けることで負担軽減できます。
- ・転院、在宅療養時に適切な医療サービスを受けることができます。

医療機関

- ・診療情報を共有し、リアルタイムで把握し、質の高い診療行為をサポートできます。
- ・高度医療機器 (CT、MRI など) のデータを活用し、地域医療全体の技術の向上が期待できます。

介護福祉施設

- ・要介護者の医療情報を把握することで、転院などに適切な処置ができます。

定住自立圏共生ビジョンでは

◎クリティカルパスの活用

多可赤十字病院と西脇病院との間では、脳卒中や大腿骨骨折など命が危機状態にあり、手術が必要な『急性期』から、命の危機から脱し症状が安定に向かっている『回復期』への過程において、病院間の機能に応じて役割分担し連携しています。

◎病診連携の推進

診療所や個人病院でかかりつけ医を持つと、病歴や健康状態・体質などの記録があるため、西脇病院などで精密検査や高度医療が必要な時は、優先的に受診することができます。

また、多可町内の3診療所(杉原谷、松井庄、八千代)の医師が、学会等の都合で不在の時は、西脇病院から医師を派遣頂けるよう連携しています。

多可町地域包括ケア連絡協議会で住民皆さんの健康、医療、介護、療養生活の向上を目指します

多可町地域包括ケア連絡協議会

【構成メンバー】

- ・町内医療施設 (歯科、内科、薬局)
- ・高齢者、障害者ケア施設及び会の趣旨に賛同する団体
- ・社会福祉協議会
- ・多可町
- ・多可赤十字病院



在宅看取りネットワークを推進していきます

